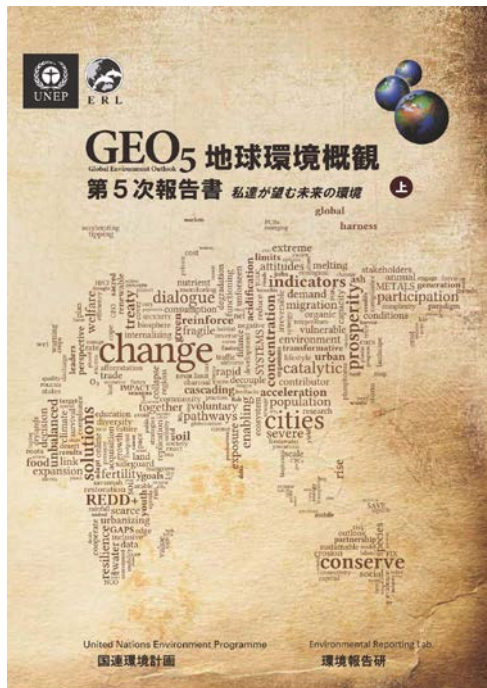


GEO 地球環境概観 第5次報告書 上

Global Environment Outlook

待望の日本語版出版 研究者、行政、NGO、企業にとって必携の書



2015年10月15日発行

定価 本体2,500円+税 (A4版フルカラー290頁)

編 国連環境計画 (UNEP)

発行所 一般社団法人 環境報告研

ISBN 978-4-9907839-0-7

<https://www.hokokuken.com> このHPにて公表、購入可

IPCC 温暖化レポートと並ぶ最重要レポート

GEO レポートは、IPCC 地球温暖化レポートと並ぶ重要なものなのに、これまで一度も翻訳出版されることがないため、日本ではその存在がほとんど知られていなかった。

何千人もの科学者と何百もの組織が関与し作成

GEO は、国連環境計画が1997年に第1次レポートを発表して以来、何千人もの科学者と、何百もの組織が関与して構築されてきた。GEO-5 はその第5次レポートで、世界600名の科学者が3年の歳月をかけて作成した地球環境に関する世界で最も権威ある報告書である。

温暖化も含めた全ての環境問題を網羅

GEO レポートは、温暖化も含めた地球環境の全ての課題を取り扱っている。第1章「駆動要因」では、地球環境を危うくする限界へと押し進める根本原因が特定され、第2～6章では、「大気」、「陸」、「水」、「生物多様性」、「化学物質と廃棄物」の各分野から地球環境の現状、傾向、展望、問題点が示され、第7章では地球システムの観点から論じられる。

地球はいくつかの臨界閾値(いきち、または、しきいち)に接近している

世界規模での環境の諸問題は温暖化による気候変動だけではない。地球は、地球規模、広域規模、地方規模で、いくつかの臨界閾値(限界点)に接近しているか、既に超過している可能性がある。いったんそれを超過してしまうと、地球の生命維持機能にとって、突然の不可逆的な変化が起こり得る(頁194)。そこで、臨界閾値を超えてしまわないよう回避するため、その手前に境界線を設ける惑星限界(planetary boundary)という新たな境界の概念が提示されている(頁207)。その概念によれば、気候変動、生物多様性の損失速度、窒素循環への人的介入については、既にその境界を超えていると伝えている(頁208)。

重要な90の国際目標の進捗状況を報告

国際的に合意された目標の中から優先度の高い90の目標(5分野での合計)が選定され、各目標について、「大気」、「陸」、「水」、「生物多様性」、「化学物質と廃棄物」の分野別にその目標を規定している条約名(第2～6章の始め部分)、その目標の進捗状況、展望、課題が分かりやすく一覧(その各章の終わり部分)で報告されている。また生物多様性戦略計画2011-2020である愛知ターゲットが分かりやすい日本語訳になっている(頁136)。

第1章 駆動要因：人口、経済発展、エネルギー、輸送、都市化、グローバル化、臨界閾値

第2章 大気：地球温暖化、粒子状物質(PM2.5)、窒素化合物、オゾン、メタン、黒色炭素

第3章 陸：農業、森林、乾燥地の劣化、食糧安全保障、食肉生産、バイオ燃料、REDD+

第4章 水：水不足、栄養塩汚染、海面上昇、海洋酸性化、河川分断化、水ガバナンス

第5章 生物多様性：愛知ターゲット、生物多様性への圧力、からの恩恵、脅威への対応

第6章 化学物質と廃棄物：電子廃棄物、POPs、金属汚染、海洋汚染、海ゴミ、化学毒性、環境中のプラスチック

第7章 地球システムの全体像：地球システムの複雑さ、極地域、オーバースhoot、惑星限界、遷移

第8章 必要なデータの見直し：環境情報を支える国際プログラム、テーマ別の欠落点

後付け：GEO-5制作工程、寄与600名一覧、用語解説、索引